

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手(B)
 研究期間：平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月
 課題番号：19730393
 研究課題名（和文）「好ましさの学習」の社会的意義に関する実験的検討

研究課題名（英文）Examination of social effectiveness of evaluative learning.

研究代表者 林 幹也
 （松山東雲女子大学人文科学部 講師）

研究者番号：80435081

研究成果の概要（和文）：

視覚-視覚の評価的条件づけ手続きが、社会的に有意義な条件刺激に対して適用可能であることを実証した。またその手続きにおいて意味般化現象が生起することを実証した。以上の結果により、評価的条件づけが現実社会における宣伝・広告において効果を発揮する可能性を強く示唆した。

研究成果の概要（英文）：

This study demonstrated that the visual-visual evaluative conditioning procedure could be applied to the meaningful social conditioned stimuli. Furthermore the result of the experiments proved that the semantic generalization phenomenon was evoked in the visual-visual evaluative conditioning. The overall results suggested that the visual-visual evaluative conditioning is effective for advertisements in our actual social-lives.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
19 年度	200000		200000
20 年度	100000	30000	130000
年度			
年度			
年度			
総計			

研究分野：社会心理学

科研費の分科・細目：若手 B

キーワード：態度・信念、社会的認知・感情、評価的条件づけ

1. 研究開始当初の背景

社会心理学・学習心理学の領域において、評価的条件づけ（evaluative conditioning）と呼ばれる評価の学習手続きが提唱されていた。しかし、その学習効果が学習に用いられた刺激に対してのみ効果を持つのか、ある

いはその刺激と意味的に関連した別の刺激にまで及ぶのか、明らかになっていなかった。このため、この種の学習の社会的意義・実用的意義が不明瞭であった。

2. 研究の目的

評価的条件づけにおいて意味般化が生じるのか、心理学実験によって検証することである。

3. 研究の方法

コンピュータと視覚刺激呈示プログラムを用いた心理学実験である。

4. 研究成果

上記の意味般化が生起することを支持する決定的な実験結果を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

1件投稿準備中

〔学会発表〕(計2件)

1. 林 幹也 (2008) 評価の学習における意味般化の検討 (日本心理学会)

2. 林 幹也 (2007) 社会的に有意味な態度対象に対する評価的条件づけの検討 (日本社会心理学会)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

特記事項無し。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 幹也 (松山東雲女子大学 講師)

研究者番号: 19730393

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号:

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号:

